



# 洗心

～日々新しく～

# 12月



## 学んだことが 生かされる喜びを感じて

マレーシアの学生さんたちがやってきてくれました。

6年生の子どもたちより少し年上の15～16歳ではありますが、聞きしに勝る優秀な学生さんたちで、流暢な日本語と英語でマレーシアや学校生活について紹介してくれました。何よりすばらしかったのは、子どもたちの話に身を乗り出して聞いてくれるその姿勢、積極的にコミュニケーションをとり、かかわろうとする熱意です。

そんな姿に、子どもたちも心からの歓迎の意を伝え、ふるさと宮崎の宝について、精いっぱい英語で発表しました。すかさず質問をしてくれたり、感想を伝えたりしてくれるので、その反応に対しても何とか英語で答え、通じ合えた時は本当にうれしそうでした。

ふるさと宮崎の宝をもとに、外国の人たちと英語で交流できたことは、子どもたちが時間をかけて学び、身に付けてきた一つ一つのことがつながり、生かされる実感味わう経験になったように思います。

学校教育目標「自ら学ぶ 共につくる」に向けて

1 主体的な学びづくり 2 創造的な学びづくり 3 成長を支える環境づくり

の三つを重点目標に、教育活動に取り組んでいます。今回は「3 成長を支える環境づくり」より、「家庭・地域との連携・協働」の実践をお知らせします。

## 大人も子どもも 共に考える防災学習

学校公開日、全校児童と保護者のみなさま、地域の防災士さん、越前町役場防災安全課の方々とともに、災害への備えを考える授業を行いました。今年は、宮崎地区民生委員のみなさまにも参観していただきました。

PTA健康安全委員のみなさまや防災安全課の方は、企画の段階からの参加で、防災学習で学んだことを発表してくれた6年生と共に、アイデアや専門性を生かした体験ブースを担当していただきました。

大きな災害があちこちで起きる中、誰もが、これまでに経験のない「もしも」に備えなければ、と考えています。

けれども、具体的な備えができていないか、というと、必ずしもそうではないようです。そんな現状に、大災害が起きれば避難生活の場となる学校で、子どもたちが自ら発信したり、家族や地域のみなさまとともに考えたりすることで、考えや行動の変化につながるきっかけにできたのではないかと考えています。



クイズや体験を通して伝える(6年生ブース)



身近な物で担架づくり(PTA健康安全委員ブース)



学校が避難所になったら……(防災士ブース)